2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上 場 会 社 名　　オイシックス株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　3182　URL　https://www.oisix.co.jp/
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　髙島　宏平
問合せ先責任者　（役職名）　執行役員CFO　　（氏名）　中川　徹哉　　（TEL）03-6867-1149（代表）

半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　（ 機関投資家向け ）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		EBITDA(※１)		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	121,292	△8.0	6,347	4.4	4,150	37.8	3,929	44.7	4,035	335.1
2026年３月期中間期	131,820	4.9	6,077	△1.4	3,011	△8.6	2,715	△25.4	927	△61.2

(注) 包括利益　　2027年３月期中間期　3,916百万円（　338.0%）　　2026年３月期中間期　　894百万円（ △66.3%）
(※１)EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却額としています。

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	116.18	―
2026年３月期中間期	26.70	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	108,549	32,780	28.5
2026年３月期	108,137	29,069	25.3

(参考) 自己資本　2027年３月期中間期　30,989百万円　　2026年３月期　27,323百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	8.00	―	12.00	20.00
2027年３月期	―	0.00			
2027年３月期(予想)			―	34.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：有
2027年３月期の配当予想につきましては、本日（2026年11月12日）公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	252,000	0.2	13,400	3.8	8,700	18.5	5,920	30.8	170.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：有
2027年３月期の業績予想の修正につきましては、本日（2026年11月12日）公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　有

新規　　ー社（社名）　ー　、除外　　２社（社名）　ORDフードサービスホールディングス株式会社
シダックスフードサービス株式会社

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	36,940,000株	2026年３月期	36,940,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	2,207,236株	2026年３月期	2,207,156株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	34,732,805株	2026年３月期中間期	34,732,888株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（セグメント情報等） …… 11
（企業結合等関係） …… 14

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社は、企業理念を「これからの食卓、これからの畑」と定め、食に関する社会課題をビジネスの手法で解決することをミッションとしています。お客様に、美味しく楽しく健康的な食生活を送っていただくためにはどうすれば良いかを考え、活動しています。

現在のように不安定な環境におきましては、生活インフラを担うサービスとしての自覚を一層強く持ち、皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

2025年10月のグループ再編に伴うB2Bサブスク事業（給食事業）の完全子会社化を機に、共通のサブスクリプションモデルを有するB2Cサブスク事業（食品宅配事業）とB2Bサブスク事業（給食事業）の両事業のシナジー創出を加速させています。すでに実施した製造、物流、システム、及びコーポレート各部門の統合により、製造ラインの稼働率向上やDX推進による生産性向上といった効果が着実に現れており、今後は商品開発から調達、製造、物流、そして食の提供に至る全工程を一体運営することで、持続的な成長サイクルを確立いたします。

2030年目標に向けては、B2Bサブスク事業（給食事業）における売上高の持続的な成長及び収益性改善による増収増益を主軸としつつ、B2Cサブスク事業（食品宅配事業）の収益性改善も並行して進めることで、トップラインの拡大と収益性改善の両立を力強く推進してまいります。

B2Bサブスク事業

国内の給食市場は、約５兆円と非常に大きく、高齢者施設や社食などを中心に安定的に推移している市場です。一方で、昨今の人材不足や原材料・人件費による利益圧迫により、食の質の低下が懸念されるなか、給食業者の業績悪化や再編の動きが顕在化しています。

中長期目標に向け、当社は、この市場再編の機会を捉え、ロールアップ型M&Aとオーガニック成長の両輪を推進し、B2Bサブスク事業の売上高の持続的な成長と収益性の改善に努め、給食業界におけるトップティア入りを実現してまいります。

【具体的な利益成長アクション】

１．売上高の持続的な成長戦略（M&A/オーガニック）：
中長期でB2B領域のM&Aを中心に行う方針に基づき、直近ではシダックスホールディングスのフード事業を完全子会社化し、コア事業の中核として位置付けています。このようなロールアップ戦略による事業規模の急拡大と、オーガニック成長の掛け合わせにより、売上高の持続的な成長を目指します。

２．収益性の改善戦略：
価格適正化の推進と店舗運営の標準化を徹底します。また、B2Cサブスク事業のノウハウを給食事業に展開し、「タイパ給食モデル」やAI・DXの活用による労務費削減を推進します。中長期的には、「タイパ給食モデル」の導入拡大や調達・物流の最適化を通じて成長投資の原資を確保し、収益性を改善することを目指します。

３．B2C知見を活用した商品開発：
「Kit Oisix」の累計販売2.5億食で培った知見と技術力を、今後の商品開発に最大限活用してまいります。この開発力を背景に、美味しさと品質を追求した高齢者施設向け完全調理品「元気ごはん」などの展開を強化し、給食事業の高付加価値化を推進してまいります。

B2Cサブスク事業

国内の食品宅配市場は約３兆円あり、今後も年成長率約３％が予想されており、順調に拡大が見込まれています。一方、当社のマーケットシェアは数％程度であり、グローバルの他社事例を踏まえても、国内事業で引き続き成長できると考えています。また、食品市場全体におけるEC比率も約４％とまだまだニッチであり、他社サービスを含めた市場全体の活性化も見込まれています。

当社は、当該市場において、「スペシャリティ」×「サブスクリプション」の領域に特化したサービスを展開しており、付加価値が高い商品を生み出す契約生産者とのダイレクトネットワークやお客様インサイトに基づくサービス開発スキル等、当該領域において高い参入障壁を築いており、流通総額でNo.１の地位を確立しています。

【具体的な利益成長アクション】

中長期目標の実現に向け、国内B2Cサブスク事業では「超ラクKit」「デリOisix」等のサービス・商品の進化を継続してまいります。商品開発から販売に至るプロセスの細部までたゆまぬ改善を重ね、外部環境の変動に左右されない強固な収益基盤の構築を推進し、収益性の改善を目指します。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して412百万円増加し、108,549百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して1,969百万円増加し、55,204百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加1,336百万円、売掛金の増加1,525百万円、未収入金の減少317百万円、その他流動資産の減少277百万円等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して1,556百万円減少し、53,345百万円となりました。これは、有形固定資産の減少664百万円、無形固定資産の減少726百万円、投資その他の資産の減少165百万円によるものであります。

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して3,298百万円減少し、75,768百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して1,434百万円減少し、46,478百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少2,040百万円等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して1,864百万円減少し、29,290百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少1,075百万円、リース債務の減少606百万円等によるものであります。

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して3,710百万円増加し、32,780百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益4,035百万円、剰余金の配当による減少416百万円等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、22,434百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、5,733百万円となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益3,929百万円、減価償却費1,956百万円、売上債権の増加額1,442百万円、未収入金の減少額317百万円、棚卸資産の減少額328百万円、仕入債務の増加額406百万円、未払金の減少額771百万円、契約負債の増加額623百万円、未払費用の増加額346百万円、法人税等の支払額615百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、792百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出301百万円、無形固定資産の取得による支出529百万円、投資有価証券の取得による支出76百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、3,620百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減少額2,040百万円、長期借入金の返済による支出904百万円、配当金の支払額416百万円、リース債務の返済による支出629百万円等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、本日公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」のとおり上方修正いたしました。また、期末配当予想についても上方修正（増配）しております。

詳細につきましては、上記お知らせをご参照ください。

今後の開示事項の発生や予想確度の変化が生じた場合には速やかに公表いたします。また、本予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績や配当額は様々な要因により変動する可能性があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,263	22,600
受取手形	14	－
売掛金	23,678	25,204
商品及び製品	2,753	2,582
仕掛品	239	130
原材料及び貯蔵品	1,859	1,820
未収入金	1,674	1,357
その他	2,014	1,736
貸倒引当金	△262	△227
流動資産合計	53,235	55,204
固定資産		
有形固定資産		
リース資産（純額）	16,920	16,284
その他（純額）	6,516	6,488
有形固定資産合計	23,437	22,772
無形固定資産		
顧客関連資産	13,006	12,624
のれん	7,730	7,492
その他	2,240	2,134
無形固定資産合計	22,977	22,251
投資その他の資産		
投資有価証券	3,680	3,564
繰延税金資産	2,381	2,344
その他	2,436	2,434
貸倒引当金	△10	△20
投資その他の資産合計	8,487	8,321
固定資産合計	54,902	53,345
資産合計	108,137	108,549

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,345	10,762
短期借入金	14,155	12,115
１年内返済予定の長期借入金	1,663	1,994
リース債務	1,295	1,307
未払金	6,535	5,946
未払費用	7,395	7,744
未払法人税等	2,277	1,794
契約負債	533	1,156
賞与引当金	1,182	1,174
ポイント引当金	122	109
その他	2,406	2,373
流動負債合計	47,913	46,478
固定負債		
長期借入金	9,058	7,983
リース債務	16,158	15,551
資産除去債務	1,123	1,130
繰延税金負債	4,608	4,472
その他	205	152
固定負債合計	31,154	29,290
負債合計	79,067	75,768
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,995	3,995
資本剰余金	6,456	6,456
利益剰余金	20,217	23,835
自己株式	△4,559	△4,560
株主資本合計	26,110	29,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	140	112
為替換算調整勘定	1,072	1,148
その他の包括利益累計額合計	1,212	1,260
新株予約権	37	37
非支配株主持分	1,709	1,754
純資産合計	29,069	32,780
負債純資産合計	108,137	108,549

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	131,820	121,292
売上原価	93,789	85,794
売上総利益	38,030	35,498
販売費及び一般管理費	35,019	31,348
営業利益	3,011	4,150
営業外収益		
受取利息	21	24
受取配当金	3	1
団体定期配当金	185	89
受取補償金	13	10
助成金収入	22	5
持分法による投資利益	－	91
その他	48	55
営業外収益合計	295	279
営業外費用		
支払利息	362	254
為替差損	11	12
持分法による投資損失	106	－
投資事業組合運用損	37	149
その他	74	83
営業外費用合計	591	500
経常利益	2,715	3,929
特別利益		
関係会社清算益	58	－
関係会社株式売却益	0	－
特別利益合計	59	－
特別損失		
減損損失	68	－
特別損失合計	68	－
税金等調整前中間純利益	2,705	3,929
法人税、住民税及び事業税	1,448	88
法人税等調整額	145	△43
法人税等合計	1,593	45
中間純利益	1,112	3,883
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に帰属する中間純損失（△）	184	△151
親会社株主に帰属する中間純利益	927	4,035

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	1,112	3,883
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	△42
為替換算調整勘定	△258	84
持分法適用会社に対する持分相当額	5	△9
その他の包括利益合計	△217	33
中間包括利益	894	3,916
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	720	4,083
非支配株主に係る中間包括利益	173	△166

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,705	3,929
減価償却費	2,372	1,956
のれん償却額	693	240
減損損失	68	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2	△25
賞与引当金の増減額（△は減少）	△24	△25
受取利息及び受取配当金	△25	△26
団体定期配当金	△185	△89
支払利息	362	254
持分法による投資損益（△は益）	106	△91
投資事業組合運用損益（△は益）	37	149
関係会社清算益	△58	－
売上債権の増減額（△は増加）	△1,287	△1,442
未収入金の増減額（△は増加）	245	317
棚卸資産の増減額（△は増加）	△163	328
仕入債務の増減額（△は減少）	△192	406
受取補償金	△13	△10
助成金収入	△22	△5
未払金の増減額（△は減少）	△259	△771
契約負債の増減額（△は減少）	550	623
未払費用の増減額（△は減少）	345	346
その他	773	410
小計	6,025	6,473
利息及び配当金の受取額	25	24
利息の支払額	△362	△254
法人税等の支払額	△686	△615
損害賠償金の受取額	13	10
助成金の受取額	22	5
団体定期配当金の受取額	185	89
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,224	5,733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△889	△301
無形固定資産の取得による支出	△215	△529
投資有価証券の取得による支出	△45	△76
投資有価証券の売却による収入	－	9
関係会社株式の売却による収入	3	－
敷金及び保証金の差入による支出	△54	△17
敷金及び保証金の回収による収入	27	40
その他	47	82
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,128	△792

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	12,300	△2,040
長期借入れによる収入	11,120	160
長期借入金の返済による支出	△20,062	△904
配当金の支払額	－	△416
非支配株主からの払込みによる収入	18	237
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,498	－
自己株式の取得による支出	△0	△0
子会社の自己株式の取得による支出	△730	－
非支配株主への払戻しによる支出	－	△26
リース債務の返済による支出	△647	△629
その他	△20	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	479	△3,620
現金及び現金同等物に係る換算差額	△39	22
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	4,535	1,343
現金及び現金同等物の期首残高	18,955	21,091
現金及び現金同等物の中間期末残高	23,490	22,434

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	B2C サブスク	B2B サブスク	社会 サービス	車両運行 サービス	計			
売上高								
宅配(Oisix)	29,227	－	－	－	29,227	－	－	29,227
宅配(その他)	17,529	－	－	－	17,529	－	－	17,529
給食	－	39,616	－	－	39,616	－	－	39,616
学童保育その他	－	－	20,220	－	20,220	－	－	20,220
車両運行サービス	－	－	－	14,549	14,549	－	－	14,549
その他	－	2,474	－	－	2,474	8,129	－	10,603
顧客との契約から生じる収益	46,756	42,091	20,220	14,549	123,617	8,129	－	131,746
その他の収益（注）４	－	－	－	－	－	73	－	73
外部顧客への売上高	46,756	42,091	20,220	14,549	123,617	8,202	－	131,820
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	101	25	35	161	1,257	△1,419	－
計	46,756	42,192	20,245	14,584	123,779	9,460	△1,419	131,820
セグメント利益	2,921	655	505	1,030	5,113	335	△2,436	3,011

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、他社EC支援事業や移動スーパー事業、投資事業などを含んでおります。

２．「調整額」のセグメント利益における内容は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．「その他の収益」は、「リース取引に関する会計基準（企業会計基準第13号）」に基づく収益であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	B2C サブスク	B2B サブスク	社会 サービス	車両運行 サービス	計			
売上高								
宅配(Oisix)	27,941	－	－	－	27,941	－	－	27,941
宅配(その他)	15,577	－	－	－	15,577	－	－	15,577
給食	－	42,371	－	－	42,371	－	－	42,371
学童保育その他	－	－	24,643	－	24,643	－	－	24,643
車両運行サービス	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	－	2,706	－	－	2,706	8,052	－	10,758
顧客との契約から生じる収益	43,519	45,077	24,643	－	113,240	8,052	－	121,292
その他の収益	－	－	－	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	43,519	45,077	24,643	－	113,240	8,052	－	121,292
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	69	3	－	78	833	△911	－
計	43,523	45,147	24,646	－	113,318	8,885	△911	121,292
セグメント利益	3,150	2,220	909	－	6,280	258	△2,388	4,150

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、他社EC支援事業や移動スーパー事業、投資事業などを含んでおります。

２．「調整額」のセグメント利益における内容は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

（報告セグメントの区分方法の変更）

当中間連結会計期間において、前連結会計年度に大新東株式会社ほか子会社１社の全株式を譲渡したことに伴い、報告セグメントであった「車両運行サービス」を除外しております。

ただし、前中間連結会計期間との比較可能性を考慮し、当中間連結会計期間のセグメント情報においては「車両運行サービス」の区分を残して表示しております（同セグメントにおける実績数値はありません）。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、当期の実績が発生しないことに合わせて比較表示用として「車両運行サービス」に集約したものを記載しております。

（収益の分解情報の表示方法の変更）

当中間連結会計期間において、報告セグメント「B2Cサブスク」における収益の分解情報のうち「宅配(大地を守る会)」「宅配(らでぃっしゅぼーや)」「宅配(Purple Carrot)」は、収益規模の状況等を踏まえ、同セグメント内の「宅配(その他)」に含めて表示しております。

当中間連結会計期間において、報告セグメント「B2Bサブスク」における収益の分解情報のうち「給食(ライフケア)」「給食(コントラクト)」「給食(学校給食)」及び「その他」に含めて表示していた一部の付随的事業に係る収益は、組織体制及び経営管理区分の変更等を踏まえ、同セグメント内の「給食」に含めて表示しております。

また、同セグメント内の「すくすくOisix」は、収益規模の状況等を踏まえ、同セグメント内の「その他」に含めて表示しております。

当中間連結会計期間において、報告セグメント「社会サービス」における収益の分解情報のうち「学童保育」「その他社会サービス」は、収益規模の状況等を踏まえ、同セグメント内の「学童保育その他」に含めて表示しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

（セグメント利益又は損失の測定方法の変更）

当中間連結会計期間より、組織体制及び経営管理区分の変更等を踏まえ、報告セグメントの業績をより適切に評価するため、全社費用の配賦方法を変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の配賦方法に基づき作成したものを記載しております。

（企業結合等関係）

（連結子会社間の吸収合併）

当社は、2026年３月27日開催の取締役会決議に基づき、2026年７月１日を効力発生日として、当社の完全子会社であるシダックスコントラクトフードサービス株式会社を存続会社、シダックスフードサービス株式会社を消滅会社とする吸収合併を実施し、同日付で存続会社の商号を変更いたしました。

１．企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業：シダックスコントラクトフードサービス株式会社（事業内容：フードサービス事業等）

被結合企業：シダックスフードサービス株式会社（事業内容：フードサービス事業等）

(2) 企業結合日

2026年７月１日

(3) 企業結合の法的形式

シダックスコントラクトフードサービス株式会社を存続会社、シダックスフードサービス株式会社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社シダックスフードサービス

(5) 取引の目的を含む取引の概要

当社グループにおいてB2Bサブスク事業（給食事業）を担う主要２社を統合することで、意思決定の迅速化と円滑化、及び財務基盤の強化と税務最適化を図り、グループ全体の企業価値向上を図るためであります。

２．実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(完全子会社の吸収合併)

当社は、2026年７月23日開催の取締役会決議に基づき、2026年９月１日を効力発生日として、当社の完全子会社であるORDフードサービスホールディングス株式会社を吸収合併いたしました。

１．企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業：オイシックス株式会社（事業内容：食品宅配事業、給食事業など）

被結合企業：ORDフードサービスホールディングス株式会社（事業内容：株式の保有、子会社の管理など）

(2) 企業結合日

2026年９月１日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

変更はありません。

(5) 取引の目的を含む取引の概要

B2Bサブスク事業の主要子会社を傘下に持つORDフードサービスホールディングス株式会社を吸収合併することにより、ガバナンスの高度化とコスト最適化、並びに財務基盤の強化と税務最適化を図り、グループ全体の企業価値向上を目的としております。なお、本合併に先立ち、同社の債務超過状態を解消するため、2026年８月31日付で同社に対する債権（関係会社貸付金19,060百万円）を放棄しております。当該債権放棄は完全子会社に対するものであり、連結決算においては相殺消去されるため、当社の連結業績への影響はありません。

２．実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。